

# 伊勢市全市博物館構想



伊 勢 市

# 伊勢市全市博物館構想 目次

## 伊勢市全市博物館構想の考え方

- 1 趣 旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - (1) 伊勢らしい「文化的なまちづくり」・・・・・・・・ 2
  - (2) いろいろな文化とふれあう場づくり - 博物館ライフの充実 - ・・・・ 2
  - (3) 心豊かな、創造的な人づくり - 伊勢の文化人（ぶんかびと）づくり - ・・・・ 2

## 伊勢市における文化資産の保存・活用の現状と課題

- 1 文化資産の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 文化資産の保存・活用の現状・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 現在の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

## 構想の具現化への基本方策

- 1 文化資産の発掘・整理と保存・活用の推進・・・・・・・・ 6
  - (1) 文化資産の発掘・整理・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
  - (2) 文化資産の保存・活用・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 拠点博物館の役割と博物館等のネットワーク化による活用・・・・・・・・ 6
  - (1) 拠点博物館の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
  - (2) 博物館等のネットワーク化による活用・・・・・・・・ 7
- 3 全市博物館構想を担う人材の育成と活用・・・・・・・・ 8
  - (1) 地域人材の育成と活用・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
  - (2) 地域の伝統文化や産業技術の保護育成と支援活用・・・・ 8
  - (3) 市民の文化活動の場の提供と交流の拡大・・・・・・・・ 9
  - (4) 市民の生涯学習の推進と活用・・・・・・・・・・・・ 9
  - (5) 博物館専門員の設置と養成・活用・・・・・・・・ 9
  - (6) エデュケーターの設置と養成・活用・・・・・・・・ 9
  - (7) 大学との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
  - (8) 人材に対する対価の整備・・・・・・・・・・・・ 11
  - (9) 市民活動との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 4 情報の収集整理活用と発信・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
  - (1) 情報の収集とその整理活用・・・・・・・・・・・・ 11
  - (2) 情報の発信とそのネットワーク化・・・・・・・・ 11
- 5 宮川流域エコミュージアムの環境保全と整備・活用並びに伊勢まちかど博物館及び商店街まるごと博物館の整備と保存・活用の推進・・・・・・・・ 12
  - (1) 宮川流域エコミュージアムの環境保全と整備・活用の推進・・・・ 12
  - (2) 伊勢まちかど博物館の整備と保存・活用の推進・・・・ 14
  - (3) 商店街まるごと博物館の整備と保存・活用の推進・・・・ 16

6	周辺環境の整備	18
(1)	交通アクセスの整備	18
(2)	その他の整備	18

### **構想の実現に向けて**

1	構想の周知	19
2	関連計画の推進	19
3	実施計画の策定	19
4	構想の進行管理	19
5	推進体制の確立	19

# 伊勢市全市博物館構想

## 伊勢市全市博物館構想の考え方

### 1 趣旨

わたしたちのまち、伊勢市は、悠久の歴史を持つまちであります。伊勢の人々と風土において育まれてきたものは、まさに伊勢そのものであり、伊勢固有の文化であります。これは、今も伊勢の地に脈々と息づいているものであります。

この伊勢独特の文化、歴史的文化を正面から捉え、伊勢の特性を活かす意味から、伊勢のまちのアイデンティティを確立することにより、文化的なまちづくりを進めていくことが求められております。

本市には、恵まれた自然や風景のほか、歴史的文化資産としては、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財等が、市内随所に数多くありますが、伊勢市全域を一つの博物館として捉えることにより、これらすべてを伊勢市全市博物館を構成する博物館・博物館収蔵品とみなし、その有効活用を考えていくものであります。

これらの貴重な資産は、現在、収集・展示・保存・公開等が個々になされているのが現状であります。

また、生活する人や訪れる人々にとって、どこにどのようなものがあるのかが知られていなく、貴重な価値に触れる機会が持ちにくいものもあります。

こうした伊勢にあります貴重な歴史的文化資産や自然等を、市内外の方々に、まず知っていただき、その価値に触れる機会を如何に提供すればよいかを考えていくため、公募委員も含め、幅広い委員の意見を集約するものであります。

一方、伊勢の風土に対して、御師をはじめとする伊勢の人々が生活する中で築き上げてきた伊勢の歴史的文化資産、広い意味における伊勢文化の担い手は、もちろん伊勢人（いせびと）であり、かつての伊勢人の歴史にスポットを当てるのみならず、これからの伊勢を担う心豊かな創造的な人づくり - 「伊勢の文化人（ぶんかびと）」づくりが、今、一番肝要なことでもあります。

このため、この構想を伊勢の文化的まちづくりの推進や歴史的文化資産、自然等の有効活用や情報発信にとどめず、次代を担う「伊勢の文化人（ぶんかびと）」づくりを積極的に進めていく必要があります。

このような施策を総合的に推進し、活性化した、あるいは発掘した様々な博物館・博物館収蔵品の情報を広く発信し、訪れる人々に様々な伊勢の文化にふれていただき、伊勢の文化人との交流を図り、この交流により新しい伊勢の文化を創造していこうとするものであります。

## 2 基本的な考え方

### (1) 伊勢らしい「文化的なまちづくり」

全市博物館構想により、伊勢のまちのアイデンティティを確立し、さらに伊勢らしさを高めます。

このためには、市民や関係機関等と相互に協力しながら、市民にとって愛着ある、また、訪れる人にも魅力ある伊勢らしい「文化的なまちづくり」をめざします。

### (2) いろいろな文化とふれあう場づくり - 博物館ライフの充実 -

伊勢にある自然、風景や数多くの文化資産が市民や関係機関等と密接に連携する中で、それぞれの特性に応じた形で、多様でユニークな博物館を守り、育て、活用できるよう「ふれあいの場づくり」を進めます。

また、情報の収集・整理・発信や博物館相互のネットワーク化などにより、訪れる人が博物館を楽しく体験することができるよう、博物館ライフの充実をめざします。

博物館ライフ ... ライフとは英語で生活、生命、生涯、人生などを表す言葉で、ここでは訪れる人の「博物館の中での生活（過ごし方）」という意味です。

単に博物館施設に来館するだけでなく、自然、風景、街道、史跡なども含め、広い意味での人々の生活の集積の場である博物館に対して、訪れる人が、その博物館の持つ歴史や文化からストーリーなどにふれ、幅広く体験できることをめざしています。

### (3) 心豊かな、創造的な人づくり - 伊勢の文化人(ぶんかびと)づくり -

伊勢らしい「文化的なまちづくり」やいろいろな文化とふれあう場づくりを推進するためには、市民や、博物館、大学等関係機関との連携を深めることにより、構想を担う人材の育成や活用を図り、次代を担う、心豊かな創造的な「伊勢の文化人づくり」をめざします。



藤工芸体験教室（伊勢まちかど博物館）



御師シンポジウム（宇治会合所跡案内）



## 伊勢市における文化資産の保存・活用の現状と課題

### 1 文化資産の現状

伊勢市は、旧石器時代から人の生活した証が確認されており、それ以後も途切れることのない人の歴史があります。特に、遅くとも6世紀に神宮が創祀されたことにより、宇治・山田地域に神宮を中心とした鳥居前町が形成されました。また、御師の活躍によるお伊勢参りの興隆により、河崎や古市、大湊などの町も形成され、多岐にわたる人の歴史が刻まれていきました。

このような歴史的背景の下、人の営みの証ともいえる文化資産は豊富に残されています。中でも、指定文化財や埋蔵文化財だけでなく、お伊勢参りの興隆により残された石造遺物や史跡の多い地域といえます。

また、注連縄や伊勢音頭・伊勢うどん・世古・伊勢の匠等の文化は現在の生活にも引き継がれており、宮川や神宮の山々に代表される自然資産も豊富な地域と言えるでしょう。

## 伊勢の文化資産

### 自然・風景

名勝	宮川堤、二見浦
天然記念物	鷲嶺の水穴、覆盆子洞、松下社の大クス、蓮台寺柿、オヤネザクラ、臥竜梅
その他	宮川、五十鈴川、神宮林

### 文化・生活様式

生活	注連縄、伊勢うどん、方言
美術工芸品	古事記上巻、日本書紀暦考、十六善神画像、木造雨宝童子立像、神宮古神宝類、木造千手観音坐像
史跡・遺跡	旧豊宮崎文庫、朝熊山経塚群、離宮院跡、山田奉行所跡、高倉山古墳
建物	金剛證寺本堂、神宮祭主職舎本館、神宮徴古館、神宮農業館 麻吉旅館、賓日館、御師邸門
まちなみ・街道	おはらい町、河崎、世古、旧伊勢街道
民俗行事	お木曳き、お白石持ち
伝統芸能	能、狂言、伊勢音頭、羯鼓踊、御頭神事
産業技術	造船、伊勢春慶、根付等地場産業
人物	荒木田守武、月僊、足代弘訓、磯部百鱗、中村左洲 伊藤小坡、橋本平八、北園克衛、竹内浩三

### 特別資産

神宮	御正殿等建造物、神宮諸祭
----	--------------

( 上記は、たくさんの伊勢文化資産の中から一部を抜粋したものです。 )

## 2 文化資産の保存・活用の現状

文化資産には有形・無形、動産・不動産など様々な形態があり、その形態にあった活用がなされています。

例えば、有形で動産の資産については、主に市内の博物館や資料館で保存・活用されています。また、建造物のような不動産についても、現地保存を軸に保存が図られています。また、登録文化財制度により登録された建造物については、河崎商人館のようにまちづくりの拠点として整備されたり、宇治山田駅や神宮徴古館のように引き続き活用されているものがあります。

無形の文化資産については、一色・通能のように保存会で連綿と引き継がれている事例があります。また、注連縄や伊勢うどんのように現在も生活の一部として引き継がれているものも多く、文化誌『伊勢ぶんか』などでも順次紹介されています。

歴史的な史跡等については、石標柱や案内板の整備が進められており、当地を訪れる人の一助となっています。

また、現在、市史編纂事業も進められており、その成果は各方面での活用が期待されています。



宇治山田駅（国・登録有形文化財）



神宮徴古館（国・登録有形文化財）

## 3 現在の課題

現在まで、豊富な文化資産についての保存・活用は行われてきましたが、課題として、次のようなものが上げられます。

収蔵、展示公開等における施設設備面の未整備。

核となる施設・機関における連携の不足により、保存・活用が断片的になっており、これに伴い、文化資産を生かすための人づくり的な活動も個々の活動に留まっている。

後継者不足に対応し、担い手である後継者育成をはじめ、保存・活用を図る人材の育成と活用。

文化資産を理解するための資料や書籍等、関連資料の未整備、また、現地へ足を運ぶための施設誘導標識や交通アクセス等、周辺環境の未整備。

施設や文化資産等に関する様々な情報の整理活用と連携による効果的な情報の発信。

## 構想の具現化への基本方策

### 1 文化資産の発掘・整理と保存・活用の推進

#### (1) 文化資産の発掘・整理

市内には、自然、まちなみ、伝統芸能、史跡等の文化資産が数多くあります。これらは、文化財保護の制度や資産そのものの形態により、多岐にわたります。しかし、このような文化資産の中には、生活の一部になっていて、資産としての価値を見え難くしているものや、埋もれている資産も少なくありません。

そこで、後述する人材の育成との関連により、埋もれている資産を発掘し、資産としての価値を再認識する必要があります。

そして、現在確認されているものを含めた形で、資産の整理作業を行うことでデータベース化し、活用しやすい環境の整備を図ります。

整理の方法としては、多岐にわたる文化資産を、時代や地域・分野・所在地などに分類しリスト化する方法が考えられます。

そして、整理された文化資産は、市民誰もが気軽に活用できるよう、書籍化による販売・閲覧や、CD-ROM化による電子データの作成が必要となってきます。また、市外の方々の活用を容易にするためにも、インターネットを活用したデータベースの閲覧についても整備を進めます。

#### (2) 文化資産の保存・活用

文化資産については、現地保存・現地活用が最も望ましい形です。そのためには、各地域の方々の参画・連携が不可欠です。

現地保存・現地活用については、文化資産の発掘整理段階から、各地域の方々の参画・連携を行うことにより、地域の文化資産を資産として認識していただく必要があります。

自然やまちなみ景観等の保存・活用については、エリア全体を活用して、地域の歴史、伝統、風景等を感じ取ってもらうことが大切です。このため、イベント等の開催も含め、自然やまちなみ景観等をいかしながら、ゾーン別、ルート別、分野別等、広域的に地域の文化資産とふれあうことのできる環境づくりを進めます。

また、各地域において文化資産を紹介するモデルコースを設定し活用することで、各地域の文化資産についての啓発的事業も考えられます。

最終的には、後述する人材の活躍する場として、各地域の文化資産を活用する形が望ましいと言えます。

一方で、文化資産の中には時間による劣化や散逸の危険性、現地保存ができないものも少なくありません。

このような文化資産については、市内の博物館・資料館などが受け皿となり、専門的見地から適切な保存を図ります。

### 2 拠点博物館の役割と博物館等のネットワーク化による活用

#### (1) 拠点博物館の役割

伊勢市全市博物館構想においては、既存の博物館や資料館だけでなく、後

述するように、宮川流域エコミュージアムや伊勢まちかど博物館、商店街まるごと博物館など、重要な位置付けになるものが多くあります。また、各地域における活動も構想が進めば、多岐にわたるものとなります。そのため、これらの活動の拠点（伊勢市センター博物館）となる存在が必要となってきます。

拠点における役割としては、情報の集約・発信を行う役割と人材育成の役割のふたつがあります。

一つ目の情報集約・発信の役割ですが、案内情報として、博物館、各施設、史跡等がどこにあるのか、また、そこへどのように行き、そこでどのように巡ればよいのかがわかるよう、歩行者から自動車利用者までの様々な手段に対し、観光案内表示板や施設誘導標識の設置、関連各施設ルート案内図等の整備を進めます。

また、施設や史跡の歴史やいわれを解説する施設案内表示板等の整備を図ります。

さらに、こうしたハード面の整備だけでなく、訪れる人の興味に応じて楽しめるガイドブックやルートマップ等の作成、PRのための案内人やイベント情報も含め、単なる博物館めぐりでなく、時代背景等を踏まえストーリー性を付加したり、多様な分野にまたがる各施設を、全市博物館構想の施設として、コーディネートする等、効果的な案内手法やしぐみを検討するなど、ソフト面の整備も図ります。

拠点博物館が担う二つ目の役割は、伊勢の文化人となる人材の育成であり、これが最も重要になる役割と考えます。このため、後述する様々な講座を開催するなどして人材の育成を図ります。

一方、拠点として現時点で想定できる施設としては、伊勢市立郷土資料館の活用が考えられます。

しかし、現状では、人的配置や施設機能面が不足しています。そのため、センター博物館としての情報集約・普及担当学芸員の配置や情報集約・発信を可能にするための施設整備や収蔵機能の充実、また、人材育成機能を強化するためのフロアの整備を図る必要があります。

## (2) 博物館等のネットワーク化による活用

伊勢市には、登録博物館や類似施設を含め、多くの博物館・資料館が運営されています。これらの施設の連携は、博物館構想の1つの核に成り得ると考えられます。

連携の具体例としては、各施設の所蔵資料の集約や検索機能の充実、センター博物館における各種展示や後述する語り部・宮川流域案内人（インタープリター）等の案内人情報などの発信が考えられます。

また、学芸員の資質を活かしてのモデルコース設定や教材の開発、人材育成のプログラム作成なども考えられます。そして、これらの活動を通して、学芸員間の連携を深め、その結果、学芸員自身の資質の向上にも繋がる効果が期待できます。

一方では、各施設の展示機能を有効活用する方法として、年間の一定期間

を利用して、統一テーマによる各館同時展の開催も考えられます。

ネットワーク化の推進については、各自がそれぞれの分野で主体的に取り組んでいくことが大切であり、訪れる人々と学芸員、専門員、案内人や地域の人々等との気持ちの共有を図る必要があります。

### 3 全市博物館構想を担う人材の育成と活用

#### (1) 地域人材の育成と活用

地域の人々こそが、地域に埋もれている文化資産を発掘し、評価するのに最もふさわしいと言えます。

宮川流域エコミュージアム、伊勢まちかど博物館、商店街まるごと博物館においてだけでなく、各地域において、地域の人々が主人公として、いきいきと活躍し、自然の中の体験、まちなみの散策等、地域の歴史や伝統、景観などを発掘、収集、保存、展示公開できるよう、ボランティア学芸員や案内人の養成講座を開催するなど、地域人材の育成を図ります。

また、伊勢を訪れる人々が地域の宝物の魅力にふれ、地域の人々との暖かい交流がもてるよう、語り部、宮川流域案内人（インタープリター）等、案内人を養成し、その活用を図ります。

#### (2) 地域の伝統文化や産業技術の保護育成と支援活用

伊勢には、古くから貴重な民俗行事や伝統芸能、また、地域の産業や技術が継承されてきています。

こうした伝統文化や産業技術等をさらに継承していくためには、その担い手である人材を育成していく必要があります。このため、伝統文化こども教室を開催したり、木造船、建築様式、伝統工芸等の伝統技術を伝えるマイスター制度創設の検討などを進め、後継者の育成を図ることにより、地域の伝統文化や産業技術を保護育成し、その活動支援を図ります。

また、お木曳き、お白石持ち行事だけでなく、伊勢固有の伝統芸能や木造船、春慶塗り等の地場産業などを幅広く、観光的にも活用を図っていく必要があります。このため、地域や関係団体等と協力連携しながらその活動を支援し、活用を図ります。



伊勢薪能（外宮北御門）



伊勢春慶展（河崎商人館）

### (3) 市民の文化活動の場の提供と交流の拡大

伊勢らしい「文化的なまちづくり」や、心豊かで創造的な人づくりを進めるためには、伝統文化を守り育てるだけでなく、個性ある市民を育て、新しい文化の風を呼び込むことも必要です。

このため、市民芸能祭や市美術展の開催をするなど、市民が主体的に活動できる文化活動の場を提供するとともに、市民の様々な文化活動と連携を図ることにより、市民相互や来訪者との交流の拡大を図ります。

### (4) 市民の生涯学習の推進と活用

市民自身が関心のある分野において、生きがいを見つけ、豊かな文化生活が送れるよう、様々な講座や講演、体験事業等を実施していきます。

また、既に幅広い分野で、潤いのある豊かな暮らしの講座を実践されているNPO法人等の関係団体とも連携しながら、生涯学習を推進し、博物館ライフを楽しんでいただけるよう、その活用を図ります。

### (5) 博物館専門員の設置と養成・活用

全市博物館構想推進のため、宮川流域エコミュージアム、伊勢まちかど博物館、商店街まるごと博物館を含み、センター博物館の学芸員とともに、各博物館等において、業務に従事する博物館専門員の設置を図ります。

このため、博物館活動を行う専門員については、学芸員の有資格者が望まれますが、有資格者に限定するのではなく、博物館を実質的に管理運営を行う人も対象に、センター博物館学芸員による指導の実施や大学と連携し、講習会や講座等を開催するなどにより、その養成を図っていきます。

博物館専門員養成講座については、博物館業務に必要な基礎知識から、実習も含め、収集・保存・整理の実務に至る段階別に、系統立てて実施していく必要があります。受講した講座の段階別に修了認定パスポート等を発行し、各博物館等で業務に従事する際の標準的な習熟スキルの証明書として活用するなど、実務に役立つ講座開設をめざしていきます。

博物館専門員については、資料の収集・整理・展示・保存等、日常の博物館業務だけでなく、センター博物館をはじめ、様々な博物館・資料館等における特別展・企画展等の各種展示や統一テーマによる各館同時展や共同イベント開催への協力業務など、学芸員、案内人、エドゥケーター等と密接に連携しながらその活用を図っていく必要があります。

### (6) エドゥケーターの設置と養成・活用

学芸員、専門員、案内人とともに博物館等における教育普及事業を主として推進するため、エドゥケーターの設置を図ります。

エドゥケーター対象者は、教職経験者が望まれますが、有資格者に限定するのではなく、歴史・文化に対する理解の深い市民も対象とするなど、できる限り広く求めていきます。

エドゥケーターの養成については、教育現場の先生をはじめとする方々や大学の協力をいただきながら、博物館専門員養成講座とも連携する中で、博物館業務に関する教育普及事業の計画策定や実施等を推進していくために必要な基礎知識、専門知識から基本的な考え方までを、内容に盛り込んでいく必要があります。

事業の実施に際しては、学芸員等や学校との密接な連携が大切となってきます。総合学習や郷土学習の場等での指導については、特に市内の小中学校と指導内容等の十分な打ち合わせが必要となってきます。学校側の意見を取り入れた教材やガイドブックを作成し、活用することも望まれます。

また、児童生徒に対する授業等への活用だけでなく、市民の博物館ライフの充実や生涯学習の推進のためにも、博学連携により、博物館を今まで以上に教育にいかせるようエドゥケーターを活用した支援を考えていく必要があります。

## (7) 大学との連携

### インターンシップ制度の導入

現役の大学生・大学院生（主として博物館学芸員課程の学生及び学芸員資格取得済み院生）が、現場の博物館において、全市博物館の業務への補助・協力することにより、自らの大学の単位を修得したり、地域貢献を図れるよう、大学と連携し、インターンシップ制度の導入を図ります。

### ボランティア学芸員講習会の開催

市民のボランティア活動や生涯学習の支援に向けて、既に活躍いただいている伊勢まちかど博物館や商店街まるごと博物館館主や地域ボランティアガイド等も含め幅広い方々を対象に、ボランティア学芸員を養成するため、大学と連携し必要な博物館の基礎知識に関する講座等を開催します。

### レベルアップ講習会の開催

様々な博物館、資料館や伊勢まちかど博物館・商店街まるごと博物館などすべての博物館等における学芸員や博物館専門員等を対象に具体的な展示及び保存技術等の習得向上のため、大学及びその他関係機関と連携し、レベルアップ講習会を開催します。



河崎商人館特別展示作業風景



尾崎喺堂記念館展示室

#### **(8) 人材に対する対価の整備**

構想の実現を担う人材については、原則ボランティアとしていますが、生きがいとして、社会に関わっていることを実感できることが大切です。ボランティアの意欲を高めることも課題ではありますが、人と人との出会いにより自分が自信を持ち、達成感を持てること、精神的に充足することが大切です。

また、モチベーションを持続していくためにも、ボランティア活動に対する対価、例えば、地域通貨制度やエコマネーの導入の可能性についての研究を行います。

#### **(9) 市民活動との連携**

構想を推進していくためには、地域とともに人材を育成し、活用していくことが大切です。

このため、NPO活動や地域の行事・活動に対して、地域が自立し、文化や様々な地域資産を保護活用していけるよう、支援と連携を強化していく必要があります。

### **4 情報の収集整理活用と発信**

#### **(1) 情報の収集とその整理活用**

全市博物館においては、博物館・資料館、宮川流域エコミュージアムや伊勢まちかど博物館、商店街まるごと博物館、インタープリターによる地域での活動に関する展示・イベント情報や資料の新収蔵情報、資料の整理情報など、多くの有益な情報があります。

これらの情報については、今までは各カテゴリーにおいて情報発信されていましたが、それに加え、センター博物館による集約した情報媒体の開発・発信などにより、情報発信のチャンネルを多くしていくことも有益です。

そのためにも、市民からの情報を積極的に収集する受け皿や各施設とセンター博物館が双方向で情報収受・発信する仕組みを構築する必要があります。

そして、集約した情報は、外部への発信を主な活用方法として実施していく必要があります。

#### **(2) 情報の発信とそのネットワーク化**

集約・整理された情報については、前述のとおり、センター博物館において新たな情報媒体を開発することで、外部へ情報発信していかなければなりません。

具体例としては、情報誌の作成・配布や、インターネットによる情報発信、CATVを利用した情報発信が考えられます。また、既存の博物館で実施している友の会的な団体の設立も考えられます。

また、全市博物館を象徴するようなロゴマークの募集・選考を行い、活用していくことは、情報発信だけでなく全市博物館そのものの啓発にも有効と考えられます。

## 5 宮川流域エコミュージアムの環境保全と整備・活用並びに伊勢まちかど博物館及び商店街まるごと博物館の整備と保存・活用の推進

### (1) 宮川流域エコミュージアムの環境保全と整備・活用の推進

宮川流域には、清流宮川にはぐくまれた自然、歴史、文化、産業、伝統があります。宮川流域エコミュージアムは、長い年月をかけて築き上げてきた「地域らしさ」の背景や想いを、流域案内人が伝えることにより、かけがえない地域の記憶をみつめ、未来を創造していく「生きた博物館」です。

宮川流域エコミュージアムは、宮川流域ルネッサンス事業の中で、平成13年度から、当時の流域14市町村（現在7市町 伊勢市・多気町・明和町・大台町・玉城町・大紀町・度会町）において、「日本一の清流」を維持し、地域と行政が協働して、地域の環境を守り、地域の人々が誇りを持てる豊かな地域づくりをめざしています。



宮川流域・五十鈴川を望む



里山（いにしへの参宮古道 矢持町）

#### 現状と課題

##### 現状

「自然環境」「伝統的な産業や歴史文化」「自然環境や生活文化と調和する技や住民の活動」など、豊かな環境を実感できる場所・もの・こととして、現在、宮川流域における多くのフィールドにおいて、大勢の流域案内人が活躍しています。流域では、手作りの魅力あふれる行事が開催されています。

流域案内人数 360人 平成18年度末現在（個人、NPO、団体、自治会、区、農家、工場、商店、自然学校、博物館、行政など）

フィールド 32ヶ所以上

（自然、文化、町並み、まつり、農業、昆虫、野鳥、史跡など）

##### 流域案内人行事

平成16年 71回（1,913人）

平成17年 125回（3,555人）

平成18年 115回（2,804人）



絆の森 を歩く（朝熊町）



わら草履づくり（横輪町）



流域案内人は語る（大湊町海岸）



水郷のまち 伊勢の歴史を学ぶ(度会橋)

### 課題

- ・ 流域内外の人々にもっと知ってもらう必要があります。
- ・ みんなの想いを実現するための体制や仕組みを整えるため、平成 18 年 4 月に大紀町に、また、平成 19 年 4 月に度会町にオープンした宮川流域エコミュージアムの拠点施設の機能を充実させていく必要があります。
- ・ 平成 18 年 4 月に設立された宮川流域案内人の会と協力・連携しながら、流域案内人相互のつながりを強化していく必要があります。
- ・ 生態系保全や文化財保護に関する専門知識をとりいれ、自らのものとしていかしていける仕組みづくりが必要です。

### 今後の方向

宮川流域エコミュージアムでは、住民と行政が協働して、地域の自然や歴史、文化などを守り伝えるとともに、流域内外の人々に学びと交流の場を提供することをめざしています。

このため、この担い手となる人材の育成に向けて、講演会、講習会、講座等を開催することにより、地域の想いを伝える宮川流域案内人（インタープリター）を養成してきました。

今後は、引き続き養成に取り組みながら、活動集の発行や活動報告会の開催などにより、相互に学んだり、興味を持った活動に参加したりすることで、流域案内人を核とする宮川流域エコミュージアムの取り組みがさらに広がり、より一層活発になっていくよう支援します。

また、センター博物館をはじめ、他の博物館等や伊勢まちかど博物館、商店街まるごと博物館、地域の語り部などと連携することにより、屋内展示などと野外でのインタープリテーションを組み合わせたり、専門的な知識やより分かりやすい伝え方について相互に学びあったりと、案内活動がより多彩なものになるよう図ります。

また、博物館などの展示情報や、流域案内人が案内する地域の自然や歴史、文化などの情報を、連携して市内外の人々に提供し、博物館への来訪や流域案内人による案内などにより、地域文化資産にふれる機会の増加を図ります。

さらに、市内のみならず、流域市町の博物館、地域の語り部や地域活動団体等とも連携を図ります。

## (2) 伊勢まちかど博物館の整備と保存・活用の推進

「伊勢まちかど博物館」は、伊勢のまちおこしグループ「ザ伊勢講」が中心となり、「人間誰でもちょっとした場所さえあれば、自分の好きなものや誇れるもの、楽しみをもとに博物館の一つくらいは作れる」を基本テーマに、「市民による市民のための草の根の文化拠点」として、平成5年にスタートしました。

昔からお伊勢参りの旅人をもてなしてきた伊勢のまちには、今もまちかどのあちこちに伝統や文化が息づいています。庶民の暮らしを伝える個人のコレクションや地場産業の工房、建物など、そこでしか見られない伊勢の生きた文化を生粋の伊勢っ子たちが紹介することにより、伊勢を訪れる人々が楽しみながらまちを歩いてもらうことをめざしています。

現状と課題

現状

伊勢まちかど博物館では、伊勢から二見にかけて、内宮かいわい、参宮街道かいわい、勢田川かいわい、二見浦かいわいの4ゾーンに、コレクション・伝統工芸(地場産業)・モデルショップ・建物・人物を対象として、30館が公開されています。

館の案内については、歴史や文化に見識の深い地域ボランティアガイド(語り部)も活躍して、訪れる人々に喜ばれています。

イベントとしては、まちかど博物館展やまちかど博物館ツアーを実施することにより、観光客の誘客や地域文化の掘り起しを図っています。

平成13年には、商店街まるごと博物館と合同で「わが町再発見ツアー」を実施しています。

山田二見コース 宇治コース 河崎・二軒茶屋コースに合計 313人の参加がありました。

ザ伊勢講では、ホームページに掲載するとともに、伊勢まちかど博物館マップや「伊勢まちかど博物館 ガイドブック&スタンプ帳」の作成・配付などにより、情報の提供に努めています。



小西萬金丹（八日市場町）



味噌たまり蔵資料館（神久6丁目）



和具屋（河崎2丁目）



岩田提灯店（船江2丁目）

#### 課題

- ・ 他の博物館等や行政といかに連携していくか。
- ・ 地域の拠点としての役割にどのような広がりをもたせていくか。
- ・ 地域や住民が主体的に参加できるイベント等の仕掛けをいかに開催できるか。
- ・ 今後、まちづくりの中にどのように位置付けしていくか。
- ・ 館の開館日、開館時間等にばらつきがある。
- ・ PRが不足している。

#### 今後の方向

伊勢まちかど博物館として、センター博物館等や宮川流域エコミュージアム、商店街まるごと博物館との協力・連携により、地域の拠点としての役割だけでなく、全市博物館構想の一翼を担うものとして、その整備と保存・活用の推進を図ります。

このため、館長へのセンター博物館学芸員による地域の貴重な宝物の保存、整理、展示についての指導、協力を行い、センター博物館との人的交流を図ります。

また、館長や地域ボランティアガイド等を対象に、講演会、講習会、講座等を開催することにより、保存、展示、案内等について、人材の育成を図るとともに、センター博物館をはじめ、他の博物館等や宮川流域エコミュージアム、商店街まるごと博物館等との共同企画の開催や事業の協働、連携により、人材の有効活用と整備を図ります。

さらに、まちかど博物館への交通アクセス、ルート図等、求められる情報の発信、いろいろな博物館をめぐる体験コースの設定など、博物館に光を当てる仕掛けを考えていきます。

### (3) 商店街まるごと博物館の整備と保存・活用の推進

「伊勢まちかど博物館」の考え方を継承して、平成13年に伊勢商工会議所内に組織された伊勢タウンマネージメント運営協議会(いせTMO)により実施されました「商店街まるごと博物館」は、各店頭で商品の歴史・情報やお宝コレクション等を展示することにより、商店・商店街を単なる売り買いをする場だけでなく、来館者との会話を通じ、「安らぎ」「憩い」「癒し」の場として、また、忘れかけていた素顔の伊勢に出会える場として、中心市街地の活性化をめざしています。

#### 現状と課題

##### 現状

商店街まるごと博物館には、めいりん商店街 8 館、しんみち商店街 32 館、たかやなぎ商店街 36 館、うらのはし商店街 10 館、うらぐち商店会 5 館の合計 91 館が参加しています。

平成 14 年 10 月には、この 5 商店街と伊勢まちかど博物館を運営する伊勢講、いせTMOにより構成される「商店街まるごと博物館連絡協議会」が設立され、14 年度に、PR活動(パンフレット、マップ等の作成)、ツアーの企画、館長会議・勉強会、先進地視察等を実施しました。しんみち商店街及びたかやなぎ商店街には、各店の展示物等を写真により紹介している総合案内所を配置し、両商店街のまるごと博物館が一覧できるようになっています。

展示物は、伊勢参宮名所図会や日本で一番古い紙幣である山田羽書から各館創業者の生活や文化を現わす特徴的なものまで幅広く、訪れる人々に親しみやすいものとなっています。

商店街まるごと博物館をよく知っていただくために、市民を対象に「わが町再発見ツアー」を実施しました。

開催回数・参加人数	計	8回(	410人)
	平成13年	3回(	313人)
	平成14年	3回(	72人)
	平成15年	2回(	25人)

#### コース内容等

平成13年	山田二見コース 宇治コース 河崎・二軒茶屋コース
平成14年	テーマ「歳末」 5商店街+史跡・旧跡めぐり テーマ「節分」 5商店街+史跡・旧跡めぐり テーマ「ひなまつり」 5商店街+河崎+史跡・旧跡めぐり
平成15年	2商店街+河崎+史跡・旧跡めぐり+しんみち・JA 伊勢合同楽市 3商店街+史跡・旧跡めぐり+節分祭+籐工芸製作体験

また、いせTMOやたかやなぎ商店街のホームページに掲載するとともに、商店街まるごと博物館と伊勢まちかど博物館を一覧できるまるわかりマップの作成・配付などにより情報の提供に努めています。



わがまち再発見ウォーキングツアー



自動車電話から携帯電話への変遷



どこの球団かわかるかな？



古市備前屋版画の版木（中村左洲作）

### 課題

- ・ 廃業等により、参加館数を維持していくのが難しい。
- ・ 展示内容が当初から同じところもあり、マンネリ化の懸念がある。
- ・ どの商店が商店街まるごと博物館に参加しているのか、各館の外側に表示がないので、わかりにくい。
- ・ 来訪者を、中心市街地の活性化にいかにつなげるか。
- ・ 各館主の商店街まるごと博物館に対する意識に差が大きい。

### 今後の方向

商店街まるごと博物館として、センター博物館等や宮川流域エコミュージアム、まちかど博物館との協力・連携により、中心市街地の活性化を図る意味からも、全市博物館構想の一翼を担うものとして、その整備と保存・活用の推進を図ります。

このため、館主へのセンター博物館学芸員による地域の貴重な宝物の保存、整理、展示についての指導、協力をを行いセンター博物館との人的交流を図ります。

また、館主を対象に、講演会、講習会、講座等を開催することにより、保存、展示、案内等について、人材の育成を図るとともに、センター博物館をはじめ、他の博物館等や宮川流域エコミュージアム、まちかど博物館との共同企画の開催や事業の協働・連携により、人材の有効活用と整備をあわせて図ります。

いせTMOを母体に、文化や歴史を活かしたテーマを設定し、商店街事業と連携したツアーやPR活動（パンフレット、マップ等の作成）を実施するとともに、集客を図るためにも、魅力あるイベントの実施（例：「商店街まち中画廊」）や店頭への参加店の表示案内の徹底などの諸方策を検討します。

参加者の拡大に向けて、商店主の意識啓発や向上に取り組むとともに、展示に関しては、館主以外に地域の方の宝物等を借り、学芸員の協力を得ながら新たな展示を行うなど、その充実を図ります。

## 6 周辺環境の整備

### (1) 交通アクセスの整備

この構想に位置づけた博物館を訪れる利用者の交通手段を確保し、博物館相互の交通ネットワークを形成することにより、博物館利用者の利便性が高まるとともに、博物館が連携することによる相乗効果が期待できます。

地域や施設の実情に応じ、自動車、公共交通機関、自転車、歩行者等、多様な交通手段に対応した柔軟性のある交通アクセスの整備を検討します。

また、来訪者が集中する時期や地域に対しては、全市的な総合交通体系を検討する中で交通需要マネジメントを検討します。

### (2) その他の整備

その他、博物館周辺の景観整備やバリアフリー化、駐車場整備、道路照明灯の設置など、全市博物館構想の推進に必要な周辺環境との調和と整備を図ります。



山田奉行所記念館



賓日館



小俣図書館



古市参宮街道資料館

## 構想の実現に向けて

### 1 構想の周知

伊勢市全市博物館構想を実現していくためには、構想の推進主体である市民、行政、大学、各種団体等が、共通の理解をもって、お互いに連携を十分図りながら、取り組んでいくことが大切です。

構想自体を市民に広く周知していく方法を検討します。

### 2 関連計画の推進

伊勢市全市博物館構想を速やかに実現するため、新市建設計画をはじめ、諸計画との整合を図りつつ、構想の基本的な考え方を踏まえた取り組みを進めます。

### 3 実施計画の策定

伊勢市全市博物館構想実現において重要な位置を占める、人材育成や既存施設との連携については、構想に基づき具体的な施策を示した実施計画の速やかな策定を図ります。

### 4 構想の進行管理

伊勢市全市博物館構想における施策の実施状況等を把握し、数値目標等を設定した項目などの進捗状況の確認を図ります。

また、伊勢を訪れた人による評価や本構想の策定委員による検証、評価など、他者からの評価を今後の施策にいかす形で構想の推進を図ります。

### 5 推進体制の確立

伊勢市全市博物館構想における総合的施策を推進していくため、市民、行政、大学、各種団体等が密接に連携できる推進体制の確立を図ります。

また、広域的な問題については、必要に応じて、県、周辺市町等と連携を図ります。

